



ab. 10. 2

菅波 茂

岡山は、21世紀にはどういう道を進むべきか。それは岡山の持ち味、特性を最大限に生かして、「世界都市」を目指すべきだろう。

世界都市とは世界が必要とする都市であり、世界に貢献できる都市である。岡山は何をもって世界に貢献できるのか。それは、長年の間に積み重ねられてきた岡山の医療、教育そして宗教を大切にす
る精神文化と阪神大震災の時の県民の救援パワーである。いずれも21世紀にますます求められるものばかりである。こうした岡山の特性をベースにして、産業、経済、

文化、科学技術など、岡山のあらゆる潜在能力を糾合し、世界都市づくりをめざすべきであろう。

世界都市岡山構想

岡山県民のボランティア

アパワーとAMDAの国際人道援助活動の実績を核として岡山県の国際貢献と地域活性化を視点に置いた構想が世界都市岡山構想である。スローガンは「西のジュネーブ、東の岡山」である。即ち、ジュネーブは国連人道援助機関の集積地であり、岡山を民間の人道援助関連機関集積地として、世界

の人道援助活動を国連機関の重要なかつ不可欠なパートナーとして位置付ける構想である。

世界都市岡山づくりに向けての

第一ステップとして「小長レポート」に基づいた「医療・福祉の国際路線」を基軸にしたい。まず、

次の医療・福祉関連の中核施設群を、岡山空港を中心とした地域に配置することを提言したい。この施設群を中核にして、県内に波及効果を幅広いものにしていく。

- ①AMDA国際大学②岡山県災害救助センター③国連ボランティア訓練センター④総合福祉研究所
- ⑤INTERNATIONAL SCHOOL

この中核施設群が世界都市岡山の求心力となる。国際貢献と地域おこしの視点を含んでいる。個々の施設については後日、折に触れて説明したい。

(アジア医師連絡協議会代表、

題字は筆者)